

令和3年度 第1回 情報エンジニア科 学校関係者評価委員会

【出席者】

学校関係者評価委員 (敬称略 順不同)

大音 和豊 モノプラス株式会社 (委員長)

小森 望充 国立大学法人九州工業大学

吉田 剛 株式会社ベルチャイルド

本学教職員

木村 誠 大阪電子専門学校 学校長

上田 良和 大阪電子専門学校 教務ユニット班長

中本 智 大阪電子専門学校 就職課主任 電子工学科1年生担任

【日 時】 令和3年8月2日 10時00分 ~ 11時00分

【場 所】 大阪電子専門学校 3階 コワーキングスペース

【議 案】

1. 委員長の任期について
2. 新型コロナウイルスの感染状況と感染対策状況の報告
3. 本年度学園事業計画の進捗報告

【議 事 録】

1. 委員長の任期について

これまで委員長の任期を明示していなかったため、委員任期と同じ2年を提案し承認された。

2. 新型コロナウイルスの感染状況と感染対策状況の報告

・学校として緊急事態宣言中は全授業オンラインで行った。実習科目についても座学可能な部分を中心にオンライン授業を行った。6月中には科目によってはオンライン授業運営の限界もあり、オンラインでは実施することが難しい授業のみ対面にしたハイブリッド

形式での授業を行った。必要なソフトウェア等の問題なければ、通学せずともオンラインでの授業も可能とした。

・ワクチン接種に関しては、大阪市では会議日現在、60歳以上しか予約ができないため学生は2学期に入らないと受けられない。ワクチン接種日は公欠とすることで学校としてワクチン接種を推奨していく。

3. 本年度学園事業計画の進捗報告

・学校として企業のニーズを調べながら、資格取得の取得を勧めている。情報エンジニア科では取り扱っていなかった工事担任者の資格も推奨している。NTT関連の就職などでは有利になるため、学生が取得できるように学内の先生と相談を行っている。

・大学編入対策では、あらかじめどういう学校に行くかの調査を行い対応している。受験に必要なってくる英語・数学を指導しているが、英語は大学の教養科目の単位変換のために学習を行なっている。

・資格取得教育についてはカリキュラムとして行っているわけではなく、学生の要望に沿って個別で学習計画のやり取りをしている。編入試験においても学生によって違うため放課後や長期休暇中に個別対応をしている。さらに資格取ろうとしている学生や授業についていけない学生の補習指導をしている。

・委員の意見より、「プロダクトデザインコースのデザインとは機能別の視点からのデザインを目指しているのか。」との問いがあった。学校の取り組みとしては他校と比較すると、外側のデザインだけではなく中で動いているセンサーやパーツの学習も行っており、実際に動く試作品を目標としている。中身まで制作するというのは、大学にもなかなかなく、専門学校でも少ない。さらに製品だけではなく試作品の作成プレゼン、パッケージデザインや広告の相談、販売マーケティングといったオールインワンのデザインを学ぶことを目指している。

・プロダクトデザインコースでは実際に製品を制作する場合、電子工学科ほどではないがセンサーの基本的な使い方や、はんだ作業や電子回路についても学習をする。一例としては赤外線センサー入れた場合、窓を作る必要があり、見た目だけ良いものが出来ても中に基盤が入らないようなデザインにならないよう機能や電子パーツと見た目のつながりを意識した制作を行なっている。

・K.I.S.S.構築の詳細について、現在全体ビジョンを各部署担当から聞き取り調査を行なっている。学校としてオンラインという状況であっても、教室にいるのと変わらないような資

料の配布システムを用い、場所に縛られずに柔軟につかえるようにしたい。VR や AI などが、普段では体験するのが難しい物も取り入れたいと考えている。

・学校側の意見では、学生一人一人に合わせた個別指導に関しても AI での補助も検討している。手書きや郵送といった従来システムを改善できれば学生の情報のリアルタイムでやりとりを行うことなどを考えている。就職活動情報の業務支援も考えており、様々なところでの利用が考えられる。

・学校として、学内ネットワークの強化のため既存のネットワーク環境の改善を行おうと工事を予定しているが、予算などをふまえて検討していく。他校のシステムを参考に先進的な専門学校を目指すため、専門学校の学生はどういう技術が要求されるかを軸にサポートできる学生中心のシステムを目指している。